

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	幼稚園における施設・空間の保育的価値の社会学的研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部こども学科・講師	氏名	甲賀 崇史
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	短期大学部こども学科・講師	氏名	甲賀 崇史

講演題目
幼稚園における施設・空間の保育的価値の社会学的研究
研究の目的、成果及び今後の展望
研究の目的 保育学において、遊びの相互行為に関する先行研究の多くは表象主義的・ロゴ中心的であり、身体が果たす役割は十分に検討されていない。本研究では、エスノメソドロジー・会話分析に端を発したマルチモーダル分析を用いて、子どもが身体を空間に位置取り、一瞬一瞬のふるまいを相互に連鎖させながら遊びを組織していく方法の一端を記述した。 成果 A 幼稚園の見晴台で観察された子どもが友達や自分の年齢をめぐって関わる場面を対象にマルチモーダル分析(Mondada, 2018)を行った。この方法により、言語以外のモダリティを切り詰めずに「子どもはどのように遊びをそのつど組織していくのか」という観点から記述した。その結果、①子どもは発話の「間」を使って遊びを組織していくこと、②言語に先行して移動をすることでお互いに理解可能な状況をつくること、③身体の向きを調整することで次の発話者を割り当てること、④自らの身体を空間づけて、やりとりを続けるための陣形を構築・維持すること、⑤身体の向きによって立場を表明すること、が考察された。 今後の展望 第一に、身体的ふるまいの豊かさの解明である。子どもが複数のモダリティを通じて、友達の出方に応じて自分の出方を柔軟に選択・調整していく。特に発話に先行して、あるいは発話を支えるような仕方、発話以外の身体的ふるまいを互いに理解可能なかたちで示すことにより、そのつど生成していく関わりの解明が今後の展望として示された。 第二に、子どもが関わりにおいて取り込んでいく環境の多様さである。本稿の結果は、子どもは遊びのなかに環境を取り込んでいるというよりも、絶えず環境を取り込み続けていることを示唆している。子どもを取り囲む環境と身体的ふるまいの継起的連鎖を記述するマルチモーダル分析は、子どもが絶えず取り込み続けている/取り込まれ続けている環境の記述が今後の展望として示された。

